

第24回まちだ男女平等フェスティバル

2024年2月3日
メイン企画(セレモニー) あいさつ

2001年2月1日 町田市は「男女平等参画都市宣言」を行い、男女平等、人権の尊重、一人ひとりの個性と能力を発揮できる社会をめざすことを明らかにしました。

これを機に、市民と行政のパートナーシップのもとに男女平等参画社会を実現していくため「まちだ男女平等フェスティバル」を実施しています。

【実行委員長 彦坂恵子 あいさつ】

「第24回まちだ男女平等フェスティバル」にご参集、オンラインでのご視聴をありがとうございます。

今年は新年早々、能登の震災で多くの方がお亡くなりになりました。まず、心からお悔みを申し上げます。多くの被災された方々が今も大変な思いで暮らしておられます。1日も早く、元の暮らしに戻れるよう、しっかりした支援を心から願っています。

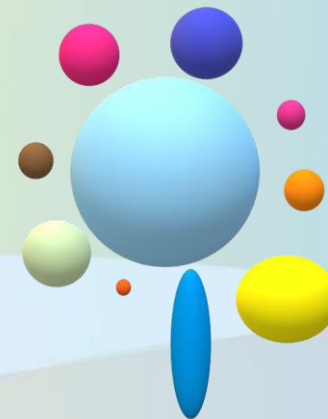
今年のフェスティバルのテーマは「ジェンダー平等 町田発、わたらしさはわたしが決める」です。一人ひとりの違いを認め、一人ひとりが自立をめざしていくという想いが詰まったテーマだと思います。ところがこの願いを逆なでするかのよう、昨年のジェンダーギャップ指数が146か国中日本は125位、前回よりも良くなるどころか、最下位に近づいてしまいました。多くの方々がこれには憤りを感じたことと思います。改めて、ジェンダー平等の社会を目指す方策、一人ひとりを認め、弱者が大切にされる社会に向け、私たちはまず「私たちの町」町田から大きなステップを踏み出したいものです。

二日間にわたり繰り広げられる男女平等フェスティバルでは、学び、そして楽しめる多様な企画を準備いたしました。実行委員と男女平等推進センターが昨年の夏から議論を重ね、お楽しみいただきながら「知」を「力」にしていただければと思い準備してきたものです。今回行った講演12企画より、4企画をオンラインでも視聴していただくことができます。

さて、世界に目を向けますと、ウクライナやガザでは、未だに多くの市民、弱者の命が奪われ続けている現実、非難の声が世界中で広がっています。「一日も早く平和を取り戻したい」と誰もが願うところです。

ジェンダー平等の前提は他にもない「平和」だと思います。みんなで平和を守り抜きジェンダー平等の社会に一步一步近づけていくことを祈念し、私の挨拶といたします。

2024年2月3日（土）
メイン企画
セレモニー あいさつ



彦坂恵子 実行委員長



横山法子 町田市市民部市民協働推進担当部長



戸塚正人 町田市議会議長

【町田市市民部市民協働推進担当部長 横山法子 あいさつ】

「第24回まちだ男女平等フェスティバル」が開催されることを、心よりお祝い申し上げます。また、本日を迎えるにあたりまして、まちだ男女平等フェスティバル実行委員会の皆様をはじめ、男女平等推進センター運営委員の方々、また登録団体の皆様のご尽力に、心より感謝を申し上げます。今年のフェスティバルのテーマは「ジェンダー平等 町田発 わたしらしさはわたしが決める」です。

男女の格差は、一見だいぶ解消されているように見え、男女平等という言葉は古臭いと思う方もいらっしゃるかもしれません。

しかしながら、昨年発表された、男女格差の度合いを表すジェンダーギャップ指数において日本は、146か国中125位という過去最低の順位となっております。

ジェンダーギャップを埋める第一歩として、自分でも気づかないうちに、性別による固定観念があることに気付くことが必要だと思っています。

いわゆる、アンコンシャスバイアス、「無意識の偏見」と言われるものです。

「偏見」というと悪い印象になりますが、さまざまな判断をするうえで、無意識にある自分の固定観念のようなものでしょうか。

例えば、ランドセル、春になると多くの真新しいランドセルを背負ったお子さんが見られます。自分の子供のころは、性別でほぼ赤か黒かが分かれていて、人と違うと少し目立つなと本人もまわりも気にしてしまう雰囲気があったかと思います。しかし、今や、お子さんたちは、色とりどり自分の選んだ色、形、個性豊かな素敵なランドセルをしょって通学していて、全く違和感なく受け入れられています。

このランドセルのように、自分らしいものは自分が決める、その人が決めたことを当たり前を受け入れてくれる社会になることが必要だと思っています。

「まちだ男女平等フェスティバル」で催される様々な展示や講演会等を通して、ご自身でも気づいていないジェンダーに対する固定観念に意識を向け、気づきを得るきっかけにしていいただければ幸いです。

結びになりますが、この「男女平等フェスティバル」が、男女平等参画社会の基盤づくりに寄与し、実りあるものとなることを心より願うとともに、皆様方のご健康、そしてご活躍を心からご祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

【町田市議会議長 戸塚 正人 あいさつ】

町田市議会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

「町田市男女平等参画都市宣言」が2001年に宣言されて以来、市民と行政のパートナーシップのもと、第24回となる「まちだ男女フェスティバル」が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。日頃より熱心に活動を続けてこられた関係者、市民団体の皆さまに、改めまして御礼を申し上げます。

このフェスティバルでは、日々活動を続けられている市民団体の皆さまから、諸問題に対し様々な視点での提示をしていただき、大変有意義な機会だと感じております。「一人ひとりがその人らしく生きるまちだ」を実現するため、大切な啓発活動の場として重要な役割を果たしていただいております。

さて、コロナ禍を経て、さまざまな環境が大きく変化しました。多くの困難がありましたが、一方で、テレワークの推進により、ワークライフバランス実現が進むなど、良い環境の変化もあったかと存じます。

町田市議会といたしましても、今後とも、様々な分野で一人ひとりがともに活躍できる社会づくりを目指してまいりますので、引き続き皆様方のご尽力をお願い申し上げます。

最後に、フェスティバル開催にご尽力いただきました、実行委員会並びに関係団体の皆様に対し、心から感謝を申し上げますとともに、皆様方のご健勝をお祈り申し上げまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。



